

奈良女子大

渡辺みよ子

砂田 孝子

北村 君

1. 研究目的 アイロンがけ作業については、いろいろな観点から、多くの研究がなされているが、その作業姿勢については、一般家庭においても各人各様で、研究もあまり行なわれていない。

そこで、著者らは、能率的かつ合理的なアイロンがけ姿勢を知るために、調査及び実験を行ない、若干の知見を得たので報告する。

2. 方法 まず、一般家庭におけるアイロンがけ作業の現状を知るため、実態調査を実施すると共に、作業のフィルム分析を行なって、それを構成する要素動作を検討した。つぎに、これらの結果をもとに、能率的、合理的アイロンがけ姿勢を力量の点からみるため、坐位・椅坐位・立位の3姿勢について、作業面積をいろいろ変化させ、それぞれの条件下におけるアイロンひっぱり力を測定した。また、一定時間継続して行なわれる作業であるから、疲労度の点からも考察するため、代表的条件下におけるエネルギー代謝率もあわせ測定した。

3. 成果 一般家庭におけるアイロンがけ姿勢は坐位が圧倒的に多く、そのうち約半数がアイロン台のみの高さで行なっている。一般主婦では適温の場合には、アイロン自体の重みを利用してかけ、自身の力で加圧することは少なく、左方に動かす動作が多い。人体機能・力量及び疲労度からみて、坐位姿勢の場合にも、適当な高さの作業台を使用した方が、一般に良好である。